

電池の検査



既存検査工程の限界

低い精度

中古バッテリーは、マシンビジョン検査装置がよく導入されている市場です。しかし、現在の映像検査では、企業の検査基準を満たすだけの精度を得ることができません。

目視による再検査が必要

マシンビジョン検査の精度が不足している場合、目視による再検査が必要となります。この結果、追加のリードタイムが発生してしまいます。

中古電池の検査が難しい

理由

欠陥の種類が多い

中古電池の欠陥には実に様々な種類があります。傷、異物、汚れ、電解物の汚れ、不完全な溶接などです。欠陥画像は、欠陥の種類により異なります。そのため、既存のマシンビジョン技術を使っても、多種多様な欠陥の検査を効率的に行なうのは難しい状況でした。





SuaKIT の利点

中古電池の表面検査の無人化、自動化、高精度化

SUALAB のディープラーニング技術により、無人で電池の検査を行なうことができるようになりました。10 種類以上の欠陥を、電池の上部または側面から見つけることができるようになりました。

このソリューションを用いて、ユーザーは、目視検査工程を、実装する水準に応じて、省略することができます。